



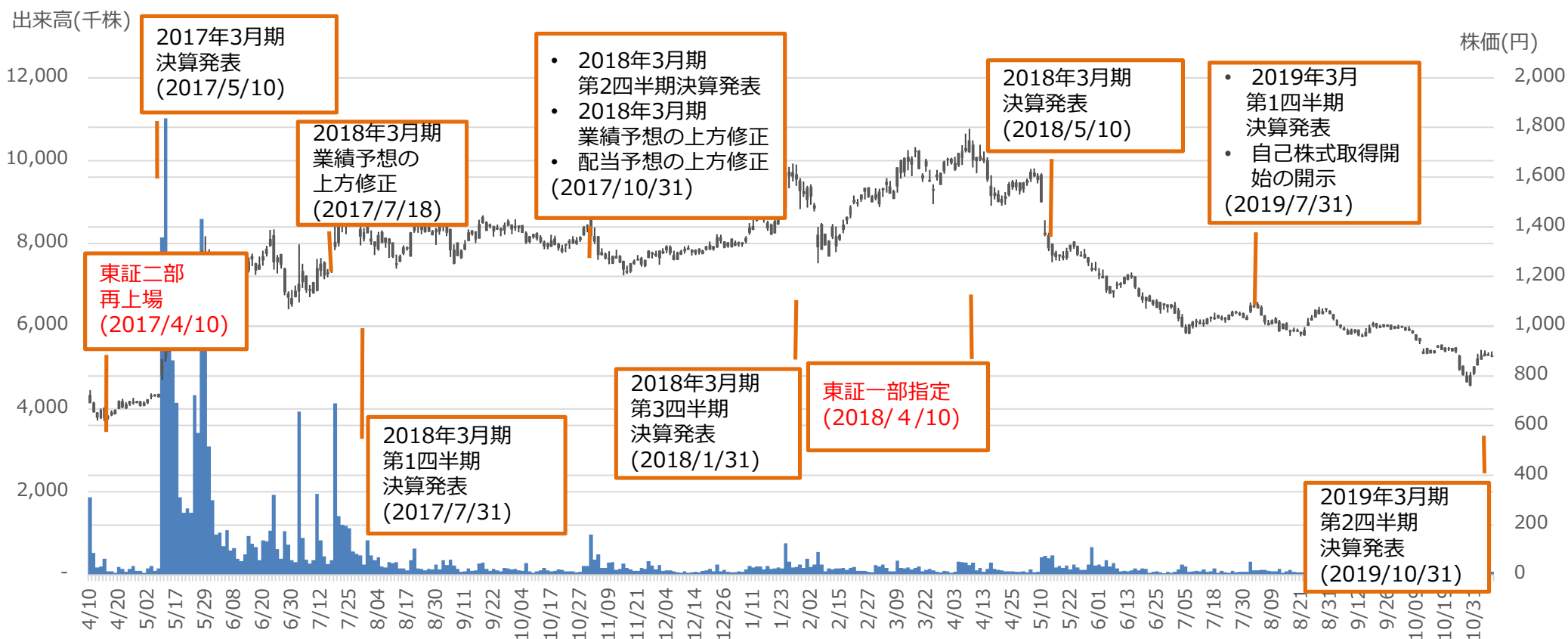
ウェーブロックホールディングス株式会社

説明資料

2018年 11月

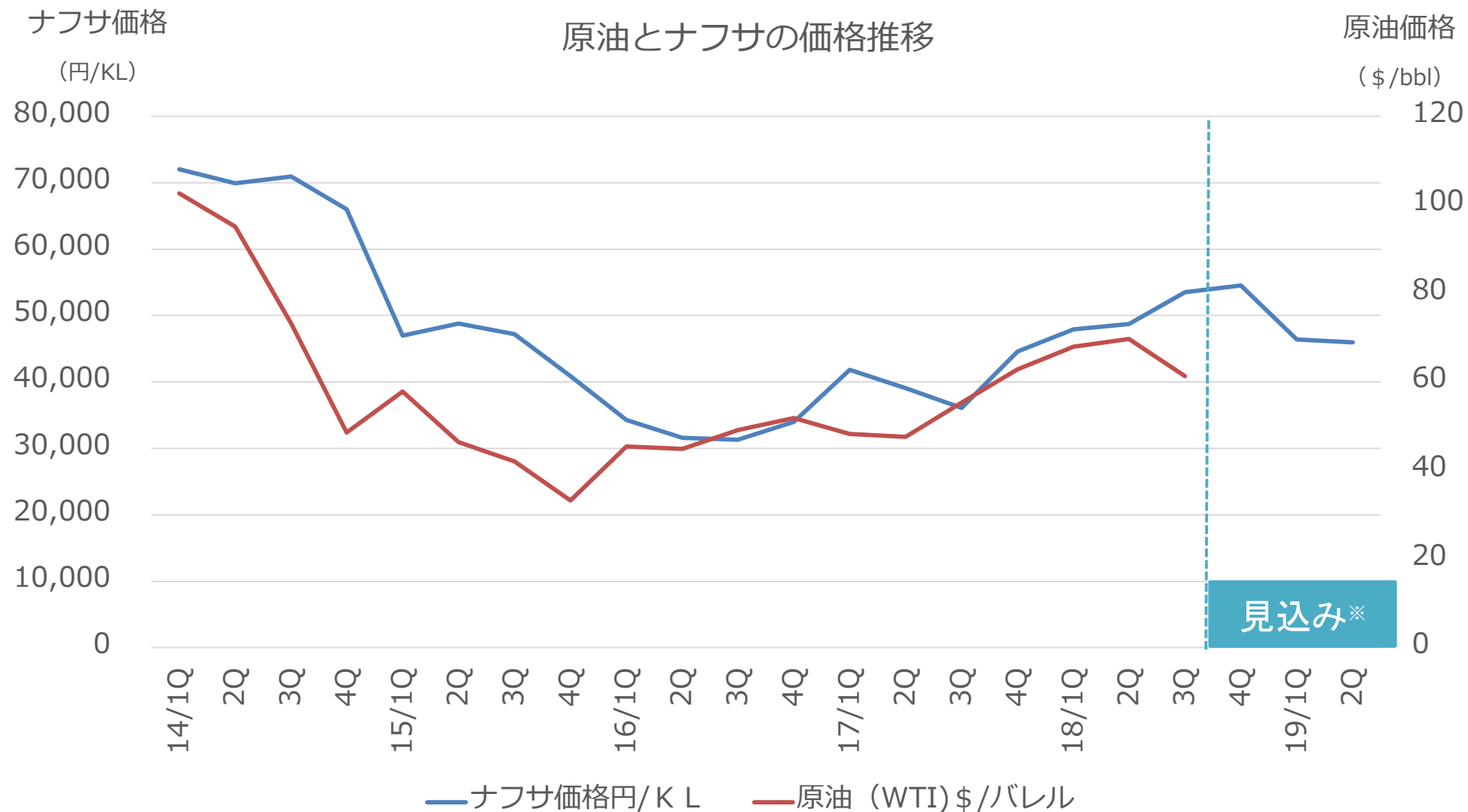
証券コード:7940 東証一部上場

2017年4月10日、東証二部再上場 2018年4月10日、東証一部指定



ウェーブブロックって
投資して大丈夫な会社なのか？

原油とナフサの価格推移



※アメリックス・エナジー・コムによる見込み

今上期は、樹脂加工メーカーの多くが原油高、材料高に苦しみ、コストアップの売価への転嫁に努めた

類似業種企業との比較



※2018年11月21日終値
YAHOO!ファイナンス参照

類似業種企業との比較

会社名	ウェーブロック ホールディングス	積水樹脂	アキレス	タキロンシーアイ	オカモト	中本パックス	リケンテクノス	ロンシール工業
株価（円）	814	2,114	2,191	587	5,760	1,762	501	1,789
2018/4/1比	△50.9%	△8.0%	△0.5%	△13.2%	+7.0%	△12.8%	△2.0%	△24.3%
今期業績予想	前期比 営業利益率	前期比 営業利益率	前期比 営業利益率	前期比 営業利益率	前期比 営業利益率	前期比 営業利益率	前期比 営業利益率	前期比 営業利益率
売上高	+2.9% -	△2.7% -	+0.1% -	+1.5% -	+5.5% -	+4.6% -	+5.7% -	△0.7% -
営業利益	+0.3% 6.5%	△3.3% 14.9%	△6.1% 2.5%	+2.8% 5.7%	△9.4% 9.7%	+12.7% 4.3%	+16.7% 6.3%	△20.2% 8.3%
業績予想値 PER	5.0 (※1、※2)	13.2	20.3	9.5	18.5	14.4	11.0	6.7
2Q時点進捗率								
売上高	50.4%	43.8%	46.6%	48.9%	48.2%	49.7%	47.3%	47.1%
営業利益	46.8%	38.0%	33.3%	52.0%	52.6%	59.3%	42.9%	51.5%
配当利回	3.4%	2.1%	1.8%	3.1%	1.7%	3.1%	2.6%	3.9%

※1. 今期業績予想値より負ののれん影響控除後：6.6倍

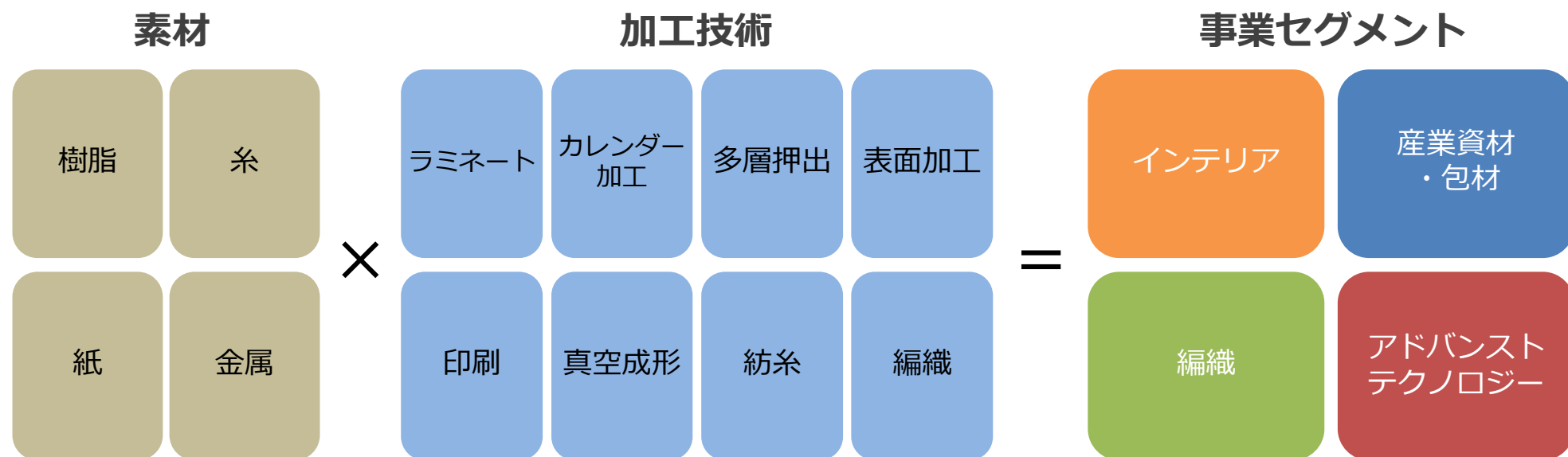
※2. 前期実績ベース：5.0倍

※2018年11月21日終値
YAHOO!ファイナンス参照

商号	ウェーブロックホールディングス株式会社
本店所在地	東京都中央区明石町8-1 聖路加タワー13F
設立	1964年6月
資本金	21.8億円
発行済株式総数	11,120,538株
上場証券取引所	東証一部（2017年4月10日東証二部上場、2018年4月10日東証一部指定）
代表者	代表取締役 兼 執行役員社長 木根 渕純
従業員	(連結)743人 2018年9月末時点
決算期	3月末
主要経営指標	(2018年3月期 実績) 売上高 277.7億円 営業利益 18.3億円 親会社株主に帰属する当期純利益 15.9億円 (2019年3月期 予想) 売上高 285.5億円 営業利益 18.4億円 親会社株主に帰属する当期純利益 16.0億円

材料ユーザーとして長年蓄積したノウハウを活かした **「複数素材の加工メーカー」**

様々な素材と、各種加工技術を **「組み合わせる」** ことで付加価値を提供



異なる特徴を持つモノを複数「組み合わせる」ことで新たな価値を創造



ビジネスモデルの再構築

創業以来のビジネスモデル

創業者の強烈なリーダーシップを
ベースとした事業展開

最小限の設備投資と独自の生産技術を
ベースとしたコスト競争力

アグレッシブな価格政策で
大口顧客を確保し、ボリュームを獲得

購買ボリュームをベースに、材料調達先を業界
2位以下のメーカー中心として安価で材料調達

創業者のリーダーシップの下、
生産技術とアグレッシブな価格政策を
ベースにしたビジネスモデル

非上場化時 (2009年7月)

- 材料メーカーの統廃合、
材料調達の価格交渉力の低下
- 原材料価格高騰、
売価へ十分に転嫁できず
- 海外製品との競争

未来に向けたビジネスモデル

創業以来培った「資産」をベースに

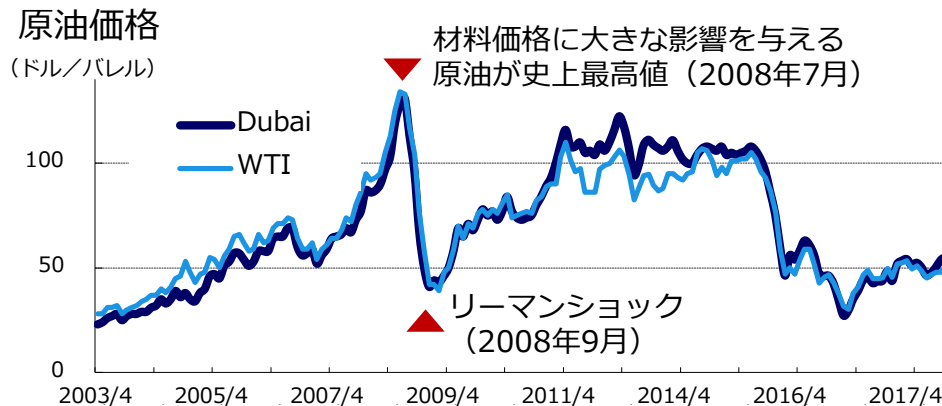
企業文化と企業体質を変革

1つの要因に過度に依存しない
事業ポートフォリオを構築

「仕組み」で差別化し収益を上げる

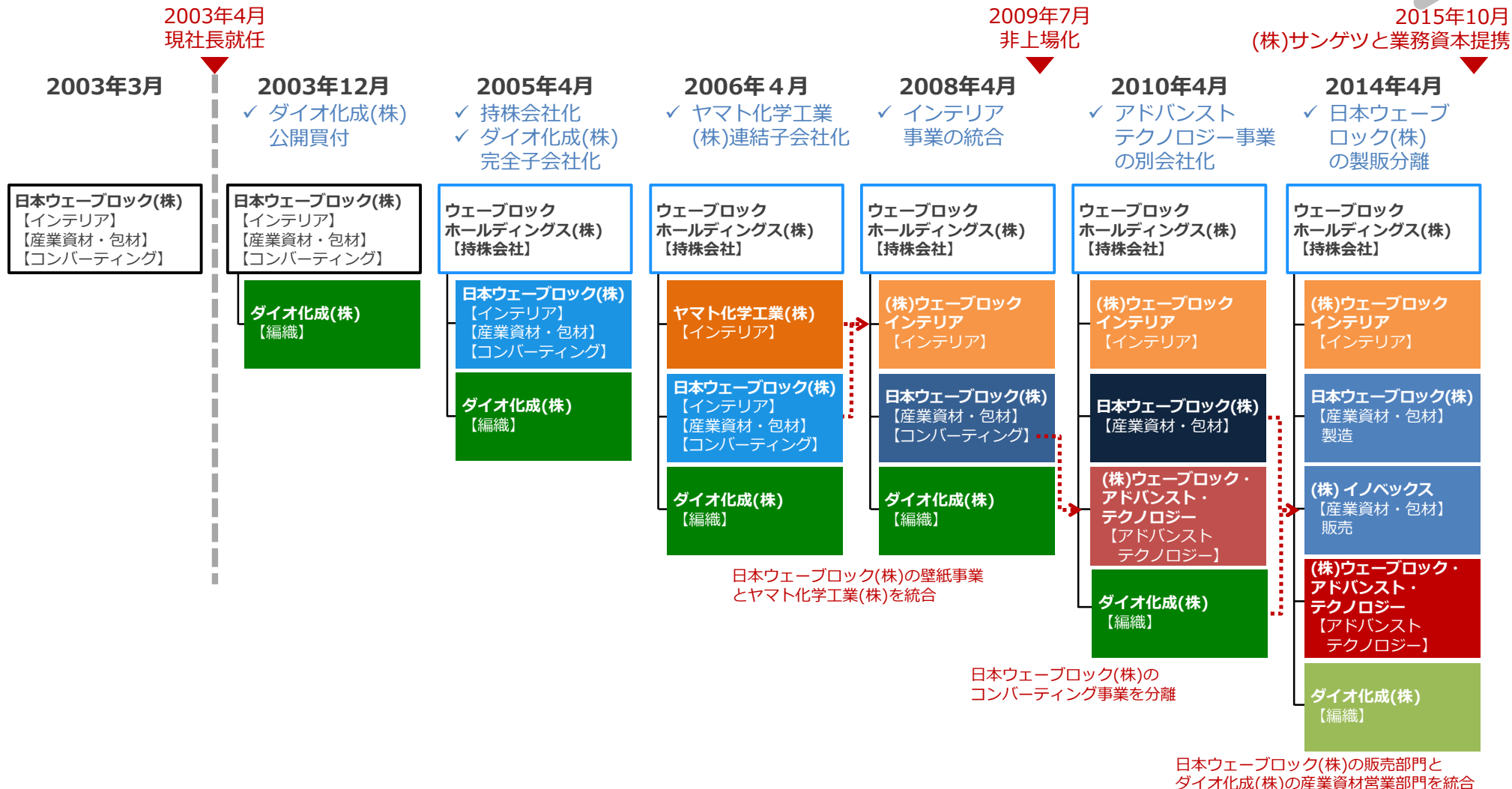
「仕組み」で差別化した
事業グループへ

原油価格
(ドル/バレル)



2003年以降の変遷

外部事業の取り込みと、事業の分離・統合による組み替えを通じて企業文化、企業体質を変革



事業概要

(売上高、営業利益は2019年3月期予想)

インテリア事業

住宅用壁紙製品等の製造・販売

売上高 95億円 営業利益 7.6億円



壁紙ベース



ロータリー
製品

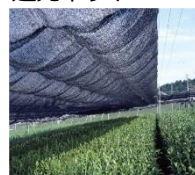


グラビアエンボス
製品

農業用ネット



遮光ネット



住宅用防虫網



売上高 83億円 営業利益 7.1億円

樹脂製網製品等の製造・販売

編織事業

産業資材・包材事業

樹脂製フィルム、シート等の製造・販売

売上高 93億円 営業利益 3.4億円



工事用
仮設シート



防煙垂れ壁



PSシート
食品包装用資材

【全体】

売上高 285億円
営業利益 18億円

ホイールキャップ



スーツケース



前面板・筐体



売上高 36億円 営業利益 4.1億円

金属調加飾シート、高機能多層シート等の製造・販売

アドバンステクノロジー事業

インテリア

編織

産業資材・包材

アドバンス
テクノロジー



ブランドメーカーの見本帳への掲載点数を増点することが売上増加の鍵

ウェーブロックグループ、

大日本印刷、凸版印刷、
アキレス、オカモト等
(壁紙メーカー)

サンゲツ、リリカラ、ルノン等
(壁紙ブランドメーカー)

工務店、デベロッパー、
インテリアデザイナー、一般消費者等
(壁紙ユーザー)



インテリア

編織

産業資材・包材

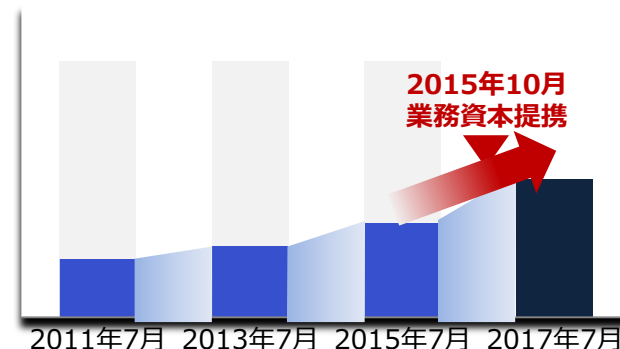
アドバンス
テクノロジー



(株)サンゲツとの業務資本提携 「仕組み」により中長期的取り組みが可能に

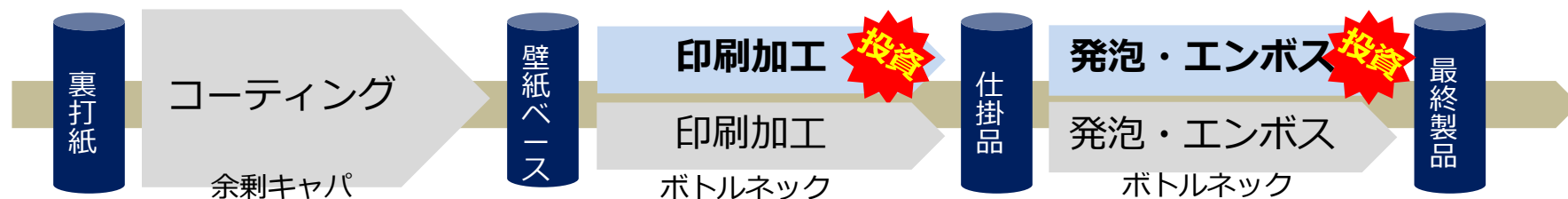
- 中長期的な視点を共有することで、設備投資などの中長期戦略の実行リスクを低減
- 事業バリューチェーン上の効率化から生まれる強いパートナーシップと相互依存
- 業界内で他社の追随を許さないコスト競争力を獲得

サンゲツの量産見本帳における当社壁紙シェア



製造工程のボトルネック部分の増強により、更なるコスト競争力アップ

- 2017年2月に設備投資、移設が完了
- 一関事業所のキャパシティを約50%増強





高シェア製品を多数保有

インテリア

編織

産業資材・包材

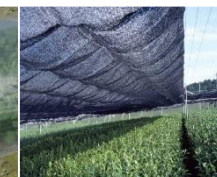
アドバンス
テクノロジー

分野	製品
生活資材	張替用防虫網、園芸用ネット
農業用資材	遮光網、防風網、防虫網
産業用資材	住宅用防虫網、建設用ネット

防虫ネット



防風網



遮光ネット

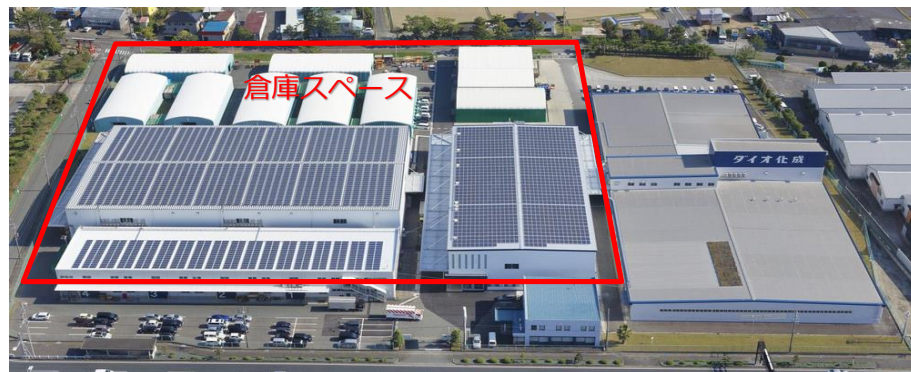


住宅用防虫網

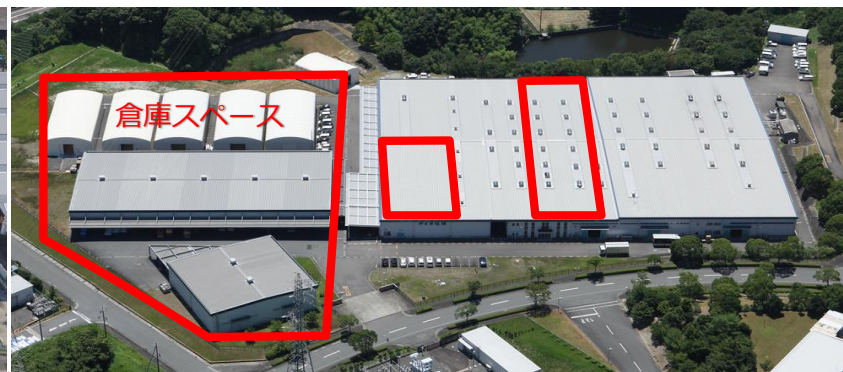


ユニークな供給体制 「仕組み」を武器として、ホームセンターとの取引を拡大

- 防虫網、園芸用ネット、遮光網等は、季節変動が大きい上にその年の天候によって需要が大きく変化
- 工場の2/3を倉庫とすることで生産は通年で平準化しながら、品切れを起こさず、かつ、シーズン終了時点での在庫返品を受け入れが可能



袋井工場（1964年設立 約35,868㎡）



掛川工場（1998年設立 約49,981㎡）

インテリア

編織

産業資材・包材

アドバンス
テクノロジー

樹脂の配合技術と加工技術を生かし、
機能性を高めた複合素材加工製品を開発

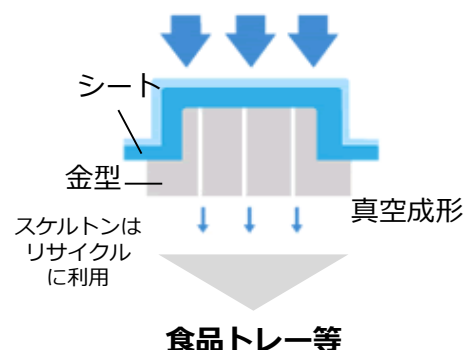
市場ニーズが高く、付加価値の高い
新製品開発の取り組み

包材分野

- バージン材料とリサイクル材料の組み合わせ



ヨーグルト容器等



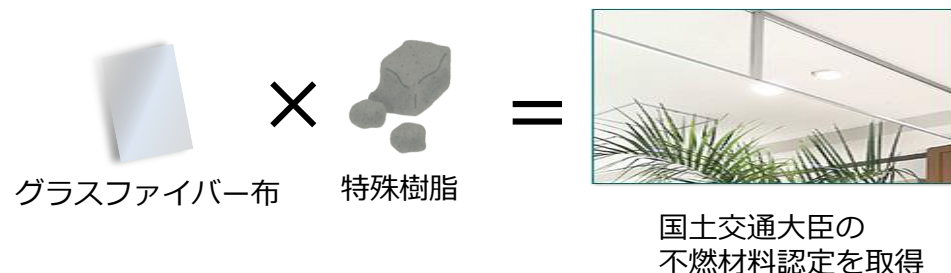
食品トレイ等



産業資材分野

防煙垂れ壁用「高透明不燃シート」

- 材料の組み合わせ



美観を保ちつつ震災時の安全性を向上

- ✓ ガラスの約10分の1の軽さで、かつ、割れない
- ✓ 他社品より高い全光線透過率と透明性



インテリア

編織

産業資材・包材

アドバンス
テクノロジー

特殊金属を蒸着したシートを自動車・家電等の加飾パーツ向けに製造・販売

金属調加飾フィルムの特長

- ・ 金属に比べ軽量
- ・ 優れた成形性
- ・ メッキに比べ製造工程での環境負荷が小さい
- ・ 電波透過性能、光透過性能に優れる
- ・ メッキや金属では難しい特殊な意匠が表現可能



金属調加飾フィルムのシート構造

アクリル層

接着層

金属蒸着層

熱可塑性樹脂



インテリア

編織

産業資材・包材

アドバンスト
テクノロジー

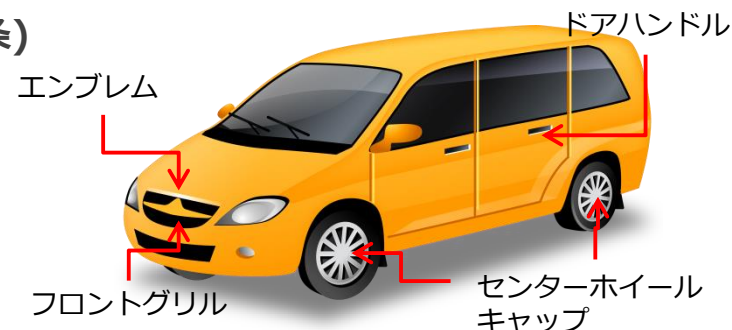


環境規制による市場拡大：環境規制と防錆性能

2000年10月制定 ELV[End-of Life Vehicles]に関するEU指令(第4条)
～新型車の環境負荷物質に関する規制

六価クロムメッキの代替として三価クロムメッキへのシフトが
図られるが、耐腐食性能不足や高コストのために浸透せず

金属調加飾フィルムは環境負荷の低減と、防錆を両立



乗用車に利用される主なメッキ製品



自動走行運転技術の進展：電波透過性能

衝突被害軽減ブレーキ義務化の流れ

衝突被害軽減システム用センサー部分に、メッキや金属に替わる
電波透過性に優れた代替素材として、
金属蒸着を利用した金属調パーツの需要増大

**金属調加飾フィルムは、一般的に、樹脂パーツへの直接蒸着と
比較し、歩留りが高く、コスト面で有利**

レーダー波を阻害しないセンターエンブレム



インテリア

編織

産業資材・包材

アドバンス
テクノロジー



共押し出しによる光学用途を主力とする特殊単層・多層シートの生産・販売

特殊単層・多層シートの製品特徴

- 少ない異物、高い層厚層比精度による、高い光学特性

主要用途

- ・ スマートフォン筐体向けシート
- ・ ナビゲーション・システム向けシート
- ・ ヘッドアップディスプレイ向けシート



**前年度から設備トラブルにより苦戦、大幅赤字だったが、今上期にトラブル解消し
下期よりフル生産状態**

- 2018年3月期は、売上高・営業利益ともに過去最高
- 2019年3月期は、売上高過去最高を更新の見込み。営業利益は過去最高であった前期並みを見込む

(単位：百万円)

	2016年 3月期 (実績)	前年比	2017年 3月期 (実績)	前期比	2018年 3月期 (実績)	前期比	2019年 3月期 (計画)	前期比	2019年 3月期 第2四半期 累計 (実績)	進捗率
売上高	25,055	+1.6%	26,886	+7.3%	27,702	+3.0%	28,500	+2.9%	14,364	50.4%
営業利益	740	△18.9%	1,359	+83.6%	1,834	+34.9%	1,840	+0.3%	861	46.8%
経常利益	904	△32.5%	1,696	+87.5%	2,144	+26.4%	2,160	+0.7%	1,082	50.1%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	365	△64.5%	1,107	+202.9%	1,594	+44.0%	1,600	+0.3%	795	49.7%

連結損益計算書

(単位：百万円)

	2017年3月期	前期比	2018年3月期	前期比	2019年3月期 第2四半期累計
売上高	26,886	+7.3%	27,702	+3.0%	14,364
インテリア	8,290	+19.4%	9,029	+8.9%	4,398
編織	8,374	+2.4%	8,209	△2.0%	4,617
産業資材・包材	9,103	+4.7%	9,089	△0.2%	4,729
アドバンステクノロジー	3,341	+14.4%	3,436	+2.8%	1,701
その他・消去	△ 2,224	—	△2,062	—	△ 1,083
営業利益	1,359	+83.6%	1,834	+34.9%	861
インテリア	533	+31.1%	863	+61.7%	305
編織	664	+15.1%	722	+8.6%	438
産業資材・包材	315	+32.8%	306	△2.9%	163
アドバンステクノロジー	213	—	294	+38.3%	156
その他・消去	△ 367	—	△ 352	—	△ 201
経常利益	1,696	+87.5%	2,144	+26.4%	1,082
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,107	+202.9%	1,594	+44.0%	795

基本方針

- 負ののれん償却額の影響を考慮した配当性向^{※1} が**20%から30%**となることを目安にしつつ、安定的な配当を実行・維持すること

※1 負ののれん償却額の影響を考慮した配当性向
= 配当総額 / (親会社株主に帰属する当期純利益 - 負ののれん償却額)

2019年3月期 配当

- 年間業績見通しをベースに負ののれん償却額の影響を考慮すると配当性向は**23.0%**^{※2}
- 配当利回り**3.4%** (2018年11月21日時点)

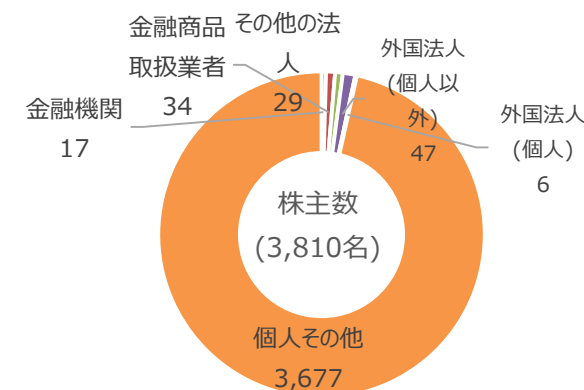
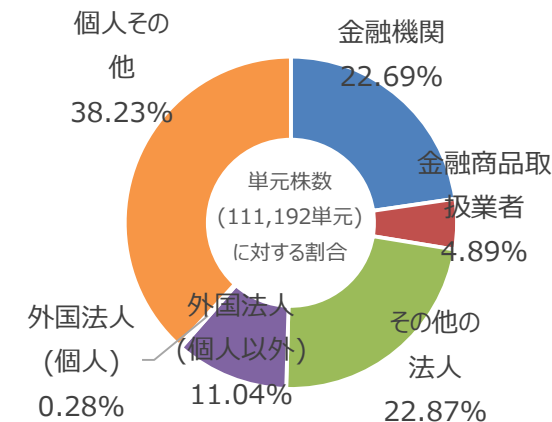
	1株あたり配当金 (円)		
	第2四半期末 (実績)	期 末 (予定)	合 計
2019年3月期	14円	14円	28円

※2 発行済株式総数から自己株式数を控除した株式数により計算

株主構成 (2018年9月末時点)

- 2018年9月末における筆頭株主は、発行済株式総数の22.21%を保有する、業務資本提携先の(株)サンゲツ
- 2018年3月末時点で第2位株主であったENTIRE HOLDING GROUP は、当期に保有株式を全て売却
- 株主総数は3,876名

順位	株主名	持株比率 (%)
1	株式会社サンゲツ	22.21
2	自己株式	10.95
3	日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	7.37
4	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	5.08
5	野村信託銀行株式会社 (投信口)	3.91
6	BBH LUX/DAIWA SBI LUX FUNDS SICAV - DSBI JAPAN EQUITY SMALL CAP ABSOLUTE VALUE	2.04
7	CHASE MANHATTAN BANK GTSCLIENTS ACCOUNT ESCROW	2.04
8	BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC)	1.94
9	上田八木短資株式会社	1.83
10	BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG/JASDEC/ACCT BP2S DUBLIN CLIENTS-AIFM	1.61
	その他	39.73
	Total	100.00



POINT1

成熟市場において特徴ある経営

POINT2

スモールマーケットでのNo.1事業の集合体

POINT3

「組み合わせ」と「仕組み」で安定的、継続的成長

POINT4

知られていないこと、十分に理解されていないこと

Appendix

連結貸借対照表

(単位：百万円)

資産	2017年 3月期末	2018年 3月期末	2019年3月期 第2四半期	負債・ 純資産	2017年 3月期末	2018年 3月期末	2019年3月期 第2四半期
流動資産	15,240	16,724	16,401	負債	19,583	19,106	18,617
現預金	2,062	2,489	2,400	営業負債	3,808	4,390	4,428
営業債権	7,292	7,795	7,839	有利子負債 ・社債	10,816	10,115	9,795
棚卸資産	5,350	5,938	5,852	負ののれん	795	406	212
その他	535	501	309	退職給付 引当金	2,070	2,103	2,097
固定資産	13,301	13,051	13,335	その他	2,092	2,089	2,083
固定資産	12,115	11,827	11,873	純資産	8,957	10,669	11,119
その他	1,186	1,223	1,462	株主資本	8,729	10,403	10,888
資産合計	28,541	29,775	29,737	その他	228	265	230

キャッシュ・フローの状況

(単位：百万円)

	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期 第2四半期
税金等調整前当期純利益	1,566	2,149	1,081
減価償却費	950	1,000	466
負ののれん償却額	△ 388	△ 388	△ 194
減損損失	111	12	-
退職給付引当金	202	70	△ 16
運転資本増減	583	△ 495	19
法人税等支払額	△ 258	△ 403	△ 430
その他	428	△ 63	15
営業キャッシュ・フロー	3,195	1,882	941
固定資産の収支	△ 2,219	△ 773	△ 357
その他	58	△ 2	△ 2
投資キャッシュ・フロー	△ 2,161	△ 776	△ 359
フリーキャッシュ・フロー	1,034	1,106	582
借入金・社債の収支	△ 67	△ 701	△ 319
自己株式の収支	△ 719	-	△ 184
配当金の支払額	-	△ 119	△ 159
ストックオプションの行使による収入	-	172	32
その他	△ 34	△ 41	△ 18
財務キャッシュ・フロー	△ 822	△ 688	△ 649

会社沿革

1964年6月 特許“ウェーブブロック”技術の導入を前提に日本ウェーブブロック(株)を設立

1965年2月 ウェーブブロック製品の生産、販売を開始

1979年11月 塩化ビニル壁紙ベースの生産、販売を開始

1983年8月 ポリプロピレン (PP) シート業界に参入

1990年10月 店頭登録、当社株式を公開

1996年12月 東京証券取引所市場第二部に上場

2003年12月 公開買付によりダイオ化成(株)[当時東証2部上場]を連結子会社化

2005年4月 「ウェーブブロックホールディングス(株)」に商号変更し、持株会社化

2006年4月 ヤマト化学工業(株)[当時三井物産100%子会社]を連結子会社化

2009年3月 ウェーブブロックインベストメント(株)による公開買付

2009年7月 東京証券取引所上場廃止

2010年4月 (株)ウェーブブロック・アドバンスト・テクノロジー設立

2012年3月 韓国にWavelock Korea Co., Ltd.を設立

2012年6月 中国に大連嘉欧農業科技有限公司を設立

2012年7月 中国の威海精誠物流有限公司の株式取得

2013年4月 日本ウェーブブロック(株)の販売部門とダイオ化成(株)の産業資材営業部門を統合し(株)イノベックスを設立

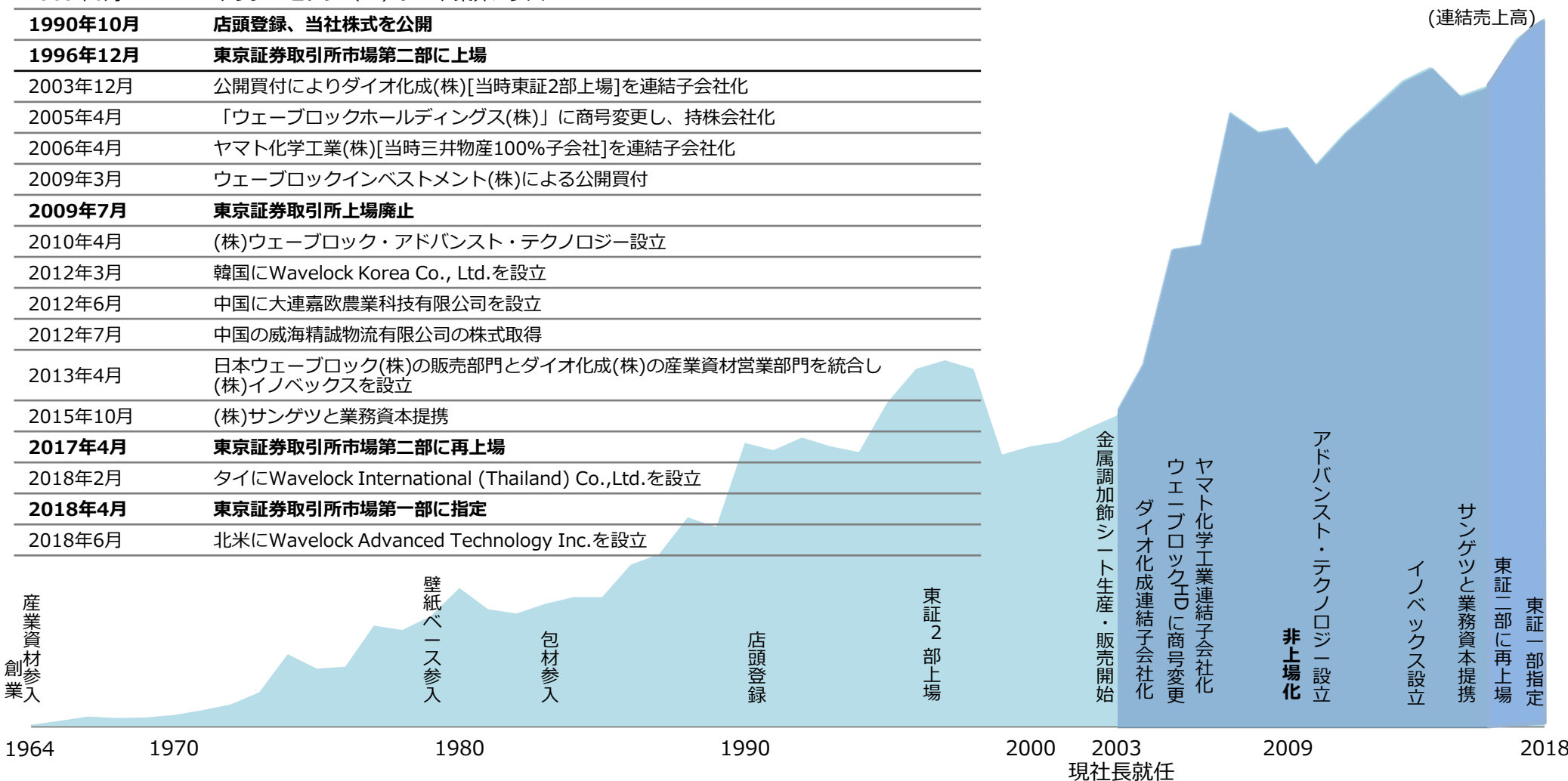
2015年10月 (株)サンゲツと業務資本提携

2017年4月 東京証券取引所市場第二部に再上場

2018年2月 タイにWavelock International (Thailand) Co., Ltd.を設立

2018年4月 東京証券取引所市場第一部に指定

2018年6月 北米にWavelock Advanced Technology Inc.を設立



本資料の作成にあたり、当社は当社が入手可能な情報の正確性や完全性に依拠し、前提としていますが、その正確性あるいは完全性について、当社は何ら表明及び保証するものではありません。

また、将来に関する記述が含まれている場合がありますが、実際の業績は様々なリスクや不確定要素に左右され、将来に関する記述に明示又は黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に全面的に依拠することのないようご注意ください。

本資料及びその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が、その他の目的で公開又は利用することはできません。